

響想の社会をめざして

令和6年能登半島地震

《支援活動報告》PARTⅡ

1月1日に発災した能登半島地震から4か月が経過しました。ライフラインが少しづつ復旧してきていますが、奥能登の珠洲市などでは、いまだに水の供給が止まったままのところもあります。NVNADは先遣隊3回を含め、延べ15回の支援活動を行っています。今回は4つのテーマに分けてご報告させていただきます。



1

==拠点・輪島==

NVNADは、被災された皆様と細やかにそして長いスパンで関わっていこうという姿勢をもっています。また、スタッフが現地に



赴いて被災者に寄り添う活動を展開することはもとより、被災地に关心を持って下さる多くの方々にボランティアとして現地に足を運んで頂き、様々な活動に取り組むお手伝いをして参りました。こうした活動を展開するため、当初より現地に人・物資・情報など『拠点』となるような場を設置できなかと考えていました。

七尾市立中島小学校避難所を何度も訪問する中で、避難所運営で中心的な役割を果たしていた現地出身の阪大生(当時)を通して市長や社会福祉協議会にご挨拶に伺い、中島地区豊川分館を拠点としてお借りすることができました。期限は1階の避難所が解消するまでとのことだったので、さらに豊田地区にもお願いし、豊田集会所を次の拠点として使わせて頂くことになりました。拠点のあるエリアを中心に七尾市での活動を行いますが、「この地区から奥能登の救援を行ってくれるのなら、この地区の誇りだ」というお声までかけて頂き、拠点は被災地を広くカバーする、まさしく「拠点」となってきています。

輪島では、当初から救援物資を届けるなどの活動をさせて頂いてきました。また、そのご縁でボランティアとして活動している大阪大学の大学院生が輪島高校での復興授業に参画することになりました。



足湯をしながら傾聴



認定子ども園を訪問して…

ただ現地の宿泊状況はまだ未整備なので、現時点では輪島に拠点を作るということはできており、豊川分館を拠点に公共交通機関で輪島に通う日々が続いている。現在、輪島市内に拠点候補を提示して下さる方もおられ、手続きを進めています。輪島にも拠点ができれば、旧門前や各地の孤立していた集落、また珠洲市や能登町にも活動が展開できるかもしれません

- content -

- P 1 令和6年能登半島地震《支援活動報告》PARTⅡ 1.拠点・輪島
- P 2 つづき 2.出前プレーパークinのと 3.仮設での活動 4.さくらまつり
- P 3 column /被災地オンライン交流会/東日本大震災から13年～福島県郡山市訪問～
- P 4 Vision1.17/第4回シンポジウム/お知らせ・第5回シンポジウム
- P 5 災害ボランティアセンター運営訓練/親子でわがまち探検隊/佐用町桜まつり
- P 6 大阪マラソン2024/子ども防災クラブ/高木春まつり
- P 7 Nうごき・Nごよみ
- P 8 会員・寄付者・募金者のみなさま/支援のお願い/編集後記

2

== 出前プレーパーク in のと ==

先発隊として入った七尾市中島小学校避難所などでは、あまり子どもの様子はみかけませんでしたが、街頭募金の際に繋がった七尾市の子ども園などからは「子どもが遊べていない」との現状を聞いていました。その後2月半ばに訪ねた輪島でも、青年会議所のメンバーから同様のことを聞き、これまでの様々な被災地での経験を活かして「出前プレーパークinのと」を企画、まずは七尾市で開催することになりました。きっかけは、地震で園庭が崩れた前述の子ども園からの要望でした。その後中島小学校学童クラブの要望もあり、七尾市の2カ所での実施となりました。



今回も、西宮市で常設プレーパークを運営する「にしのみや遊び場つくろう会」と協力し国有地プレーパーク常連の幼児親子や小学生たち10人ほどが参加し、能登の子ども達と遊びました。その様子はNHK石川のニュースでも紹介されましたが、楽しそうに遊ぶ子ども達とともに「思いっきり外遊びをすることがなかったので嬉しそうで良かった」と話す保護者が印象的でした。夏休みには輪島でも実施したいと思っています。

3

== 仮設での活動 ==



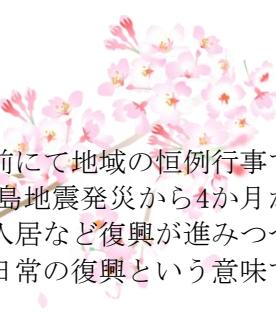
当団体が、震災直後から物資の運搬や避難所の運営などで活動に関わっている七尾市中島町の中島中学校跡地に仮設住宅60戸（追加で20戸建設中）が完成し、3月下旬に入居が始まりました。



当団体が拠点として利用させていただいている「豊川分館の避難所」に避難されている方々も数組この仮設住宅に入居されています。4月に入り入居者が徐々に増えてきて、震災直後から支援活動で連携している大阪大学や福知山公立大学のメンバーと一緒に、我々も冷蔵庫や日用品などの運搬をお手伝いさせていただきました。ただ、この仮設住宅には集会所や談話室がないので、入居者同士が交流する機会が今後の課題となっています。4月28日（日）には大阪大学稻場研究室の学生さんや関西学院大学の関先生にもご協力をいただき、仮設住宅の空きスペースで試験的に「出前カフェ」を開催しました。今後は近くの集会所をお借りして、在宅避難者と仮設住宅の入居者との交流の場づくりにも関わっていきたいと思います。

4

== さくらまつり ==



4月14日（日）桜が満開の中、豊川分館前にて地域の恒例行事であるお花見会が開催されました。能登半島地震発災から4か月が経過し、水道の復旧や仮設住宅の建設、入居など復興が進みつつあります。今回のお花見会も現地の方の日常の復興という意味でとても大切な行事でした。



当日は、当団体や大阪大学、福知山公立大学、京都大学の先生や学生ボランティアと一般ボランティアが一体となり、設営や出店、運営に参加しました。現地のお店によるケーキやちらし寿司、手芸品の販売のほか、わた菓子、スーパーぼーるすくい、折り紙コーナーやゆるキャラ（着ぐるみ）の登場などがありました。当団体は高山堂さまからご提供いただいたお菓子にお茶を添えてお出ししました。その他にもお子さん向けのうまい棒釣り（西宮市社会福祉協議会提供）を出店し、楽しいひと時を過ごさせていただきました。

時間の経過とともに支援の形も刻々と変化してきます。この度、現地の皆さんと楽しく交流することで心の復興に少しでもお役に立てていただけたら幸いです。世間の関心が薄れてしまうことが懸念されますが、引き続き活動を行っていきたいと思います。

column

《ご挨拶》阪神間では、今年は久しぶりに満開の桜の中での入学式となりましたが、私たちがお手伝いさせていただいている七尾市中島地区でも4月14日の日曜日に桜まつりが行われ、多くの皆さんの笑顔に接することができました。

新聞などでも報道されていますように、能登半島地震の被災地では、ようやく仮設住宅への入居が本格化し始め、復興に向けた最初の一歩を踏み出すことができたように思います。しかしながら、発災から4か月が経っても多くの地域で倒壊した家屋がそのままになっている様子などを目の当たりにしますと、復興への道のりは遠く、息の長い支援が必要だと感じさせられます。

さて、今年度は阪神・淡路大震災から30年目の節目の年に当たります。昨年9月にスタートした連続シンポジウムは、4月20日に「子どもたちとつくる地域防災マップの可能性」と題して、第4回目を開催させていただきました。「防災といわない防災」をキーワードに始めた私たちの防災・減災活動の原点ともいべき「防災探検隊」の取り組みは、日本損害保険協会さん等のご協力を得て、今では毎年、全国の2,000グループ以上の皆さんにご参加いただくなっています。

「あれから30年 NVNAD2025プロジェクト～みんなが助かる社会をめざして～」は来年の2月まで続きますし、6月には総会も予定しています。この一年、いつもはリモートで応援していただいている皆さんにも、よろしければ久しぶりに会場まで足を運んでいただければ幸いです。

(NVNAD理事長 檜垣龍樹)

被災地オンライン交流会



東日本大震災から13年、発災当初から支援し現在も交流を続ける岩手県野田村。3月3日(日)に西宮市内で、同村立野田中学校と西宮市立中学校2校とのオンライン交流会を開催しました。今回は能登半島地震の被災地、七尾市中島小学校避難所の運営リーダーも参加して、3つの被災地を結ぶオンライン交流会となりました。

3校の生徒たちはそれぞれ映像で自分たちの取り組みを紹介し、その後感想や今後について発言しました。野田中学校は創作太鼓を披露し「震災をギリギリ体験した自分たちが伝えたい」と発信。西宮市立山口中学校はその野田中学校との2011年からの交流を紹介し、今後についても発言しました。西宮市立浜脇中学校は阪神淡路大震災から取り組む全校生徒の人文字を紹介し、思いを繋ぐ大切さを伝えました。そしてオンラインで参加の能登七尾市の谷一浩平さんは、能登半島地震の現状を報告し支援の協力を訴えました。

最後は浜脇中学校合唱部の生徒有志が手話を交えて「花が咲く」を参加者とともに歌い、被災地への思いを新たにするとともに、その思いを繋ぐ大切さを共有しました。



東日本大震災から13年 ~福島県郡山市訪問~

読売新聞と朝日新聞



3月11日、東日本大震災から13年。今年も福島県郡山市にある復興住宅・東原団地を訪れました。折に触れ訪問させて頂いてきた集会所での茶話会もコロナ禍による中断が続いており、1年ぶりの訪問となりました。覚えて下さっている方はいらっしゃるかな?と心配な気持ちを持ちつつ集会所に足を踏み入れると「あー!遠いところわざわざ!」と顔を見るなりお声がけいただきました。これも、何度も伺っているという理由からだけでなく、仮設住宅の頃から高山堂さんのお菓子を10年以上にわたりお届けしてきた“お菓子の力”、まさに高山堂さんのおかげのように思います。

有志の方々が作ってくださったお弁当と一緒にいただきながらお話をうかがいました。緊急避難から仮設住宅、そして復興住宅…住み慣れた街を離れ13年。訳も分からず、とりあえず指示に従い避難した当時のことから、戻ることを断念し復興住宅に住んでいる現在の話まで色々話してくださいました。そして、皆さん1月1日に発生した能登半島地震のことを心配しておられました。

例年と同じように追悼ろうそくに祈りを込め2時46分を迎えるました。毎年「3.11」の形にろうそくを並べますが、今年はその横に、小さくではあります「1.1」と並べられたろうそくが加えられていました。東北の方々と、能登に思いを馳せながら過ごす3月11日になりました。



Vision 1.17

能登半島地震では、石川県に登録した方々だけを災害ボランティアとして認め、「個別に被災地を訪問することはお控えください」というメッセージが4月になっても発信されています。被災地各地の社会福祉協議会に設けられた災害ボランティアセンターで受け付けられるボランティアの数には限界があります。また、災害ボランティアセンターでは、被災者から寄せられたニーズに対応していますが、被災者が何とも言い出にくかったニーズは入ってきません。その結果、被災地で活動するボランティアの数や活動の種類は、とても少ないので現状です。

災害ボランティアが被災地を訪れて個々に活動するのであれば、被災された方々の多様なお困りごとに臨機応変に対応します。具体的な活動は、がれきの撤去に精を出したり、救援物資を届けたり、炊き出しがたり、助けて欲しいという声が出しにくい方々に寄り添ったり、足湯でコミュニケーションを図ったりと実に多様です。

ここから何を学ぶべきでしょうか?こんなバラバラな活動ではよろしくないので、もっとそれぞれが連携し、もっと効率を上げて有効な活動をすべきなのでしょうか?がれき撤去は専門家を配置し、物資の配送システムを作り直し、炊き出しが集中管理と配送網の整備に努め、傾聴担当者を育成し、何なら足湯のできるロボットを開

発してAIと会話するという方向に進むべきだと本気で思う人は少ないと信じます。災害ボランティアの魅力はこんな統制された効率的な活動にあるわけではないからです。

改めて考えてみると、災害ボランティアは、多様な背景をもった市民がボランティアとして参加し、多様な方々と触れ合い、その場その場の状況に応じて臨機応変に対応することができることが魅力です。もちろん、効率は悪いかもしれないけれど、丁寧にお一人お一人に向き合っていきます。

効率や有効性ばかりが優先される日常生活の中で災害に遭い、その時に、見ず知らずの人がボランティアとしてやってきて、そっと寄り添いながら、臨機応変に対応してくれる。ああ、この時代にもそういう人間関係の持ち方があったのだということに改めて気づいていく。そこが災害ボランティアの魅力なのだと思います。

災害ボランティアを制限し、一括して制御していくとする姿勢は、こうした災害ボランティアの魅力を削ぐことになります。実は、グループ・ダイナミックスでも、社会で日常当たり前だと思っていることを反省する機会は、社会の変化をもたらすとされます。災害ボランティアが見ず知らずの人たちにそっと寄り添うとき、効率優先という当たり前だったことを反省する機会が生まれるのではないかでしょうか。ボランティアを制限し、統制していく姿勢は、社会を振り返り、変えていくことを芽を摘むことになっています。

(NVNAD副理事長 涩美公秀)

第4回シンポジウム

あれから30年
NVNAD2025プロジェクト
～みんなが助かる社会をめざして～



4月20日（土）、西宮市民会館にて「第4回シンポジウム」を実施しました。

今回は「子どもたちとつくる 地域防災マップの可能性」をテーマに、当団体副理事長の渉美公秀がコーディネーターを務め、パネラーとして、水谷純基様（日本損害保険協会）、ハッ塚としえ様（NVNAD元研究班）にお越しいただき、当団体からは常務理事の寺本弘伸が登壇しました。

26年前、当団体の研究班が西宮市の小学校を中心とし実施した小さな取り組み（防災マップ作り）を、その後日本損害保険協会が「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」として全国規模で展開し軌道に乗せてくださいり、昨年度で第20回を迎えた。全国からの総応募マップ数34,219枚、総参加児童数227,857人という一大イベントにまで成長しました。

当日は、パネリストそれぞれがマップ作りを通しての想いを伝えたり、誕生秘話や現状について分かりやすく説明してくださり、来場した皆さん何度も大きく頷いていました。

最後になりましたが、遠路はるばるご参加くださった水谷様、ハッ塚様、当日ご清聴くださった皆様に心より御礼申し上げます。

お知らせ

第5回シンポジウム

日 時: 6月30日(日)14時～16時 場所: 西宮市民会館1階101

テーマ:「さわって知る防災～視覚にハンディを持った方の防災～」

パネラーに、広瀬浩二郎様（国立民族学博物館教授）、石塚裕子様（東北福祉大学教授）をお迎えし、当団体の理事:萩野茂樹がコーディネーターを務めます。皆さまのご来場をお待ちしております。

災害ボランティアセンター運営訓練

2月17日（土）西宮市総合福祉センターにて、西宮市・西宮市社会福祉協議会・NVNADの3者が協働して「災害ボランティアセンター（以下、災害ボラセン）の運営訓練」を行いました。今回は、大雨により武庫川が氾濫したとの想定で、災害時に西宮市役所内に設置される災害対策本部（以下、災対本部）と災害ボラセンとの間での情報のやり取りについて

て、3者が3グループに分かれて訓練を実施しました。前半は、災害直後を想定し、災対本部から災害ボラセンへ道路の通行止めや家屋の浸水エリアなどの情報を電話で報告し、西宮市内の地図に整理していく作業を実施しました。また後半では、具体的なボランティア依頼事項を10案程度準備し、時間制限の中で対応についてグループごとに協議をしました。

災対本部と災害ボラセンの情報のやり取りがいかに大切なことを改めて認識することができ、有意義な訓練となりました。



親子でわがまち探検隊

3月2日（土）、西宮の高木公園にて「親子でわがまち探検隊」が開催され当団体も参加しました。当日は①高木公園に設置している「防災倉庫」の資機材の点検、②手押しポンプで水を汲み井戸に水が流れているか確認、③水道局による緊急貯水槽の説明と実地訓練、④消防局による消火器（訓練用に水が出るもの）を使用し、実際に放水の体験＆火災時の煙の危険性を学んでもらうため、人体に害のない煙を高木市民館の一室に充満させ、実際に火災時の煙を体験。



佐用町桜まつり

3月31日（日）、恒例の佐用町の桜まつりが開催され訪問してきました。今回もチャコネットの学生メンバーと一緒に、輪投げ、ヨーヨー釣り、バルーンアートなど子どもの遊びコーナーを担当しました。会場となった笛ヶ丘ドームには、ステージをはじめ、地元の特産品の販売やお汁粉の提供ブースなどの出店があり、開始時刻の10時前から来場者が徐々に増え始め、お昼頃には会場内は人でいっぱいになりました。会場周辺はあちらこちらで桜が満開で、今年はタイミングがバッチリでした。



2009年8月の水害直後から大変お世話になった笛ヶ丘荘の横山支配人がこの日で退職されるということで、これまでお世話になったお礼をお伝えしました。横山支配人、本当にありがとうございました。



横山支配人（左）



チャコネットメンバー

OSAKA MARATHON 2024

2月25日(日)、大阪マラソン大会2024が開催されました。当日は少し肌寒く小雨が降る生憎の天候。ランナーさんはもとより応援する我々にも厳しい条件でしたが、当団体をパートナーに選んで下さったチャリティランナーさんを応援しようと、スタッフ一同やる気だけは万全!! 「ランナーズ・アイ」というゼッケン番号でランナーさんの居場所が分かる最新のアプリを頼りに、幾つかのグループに分かれ、地下鉄を乗り継ぎながらランナーさん達を追いかけて声援を送らせていただきました。厳しい天候の中、ゴールを目指してひたすら頑張って走るランナーの皆さん。皆さん頑張りました。我々も元気をいただきました。

チャリティランナーの「tethujiさん」「大塚黄司さん」「ショットバーアイラさん」「リソウさん」「青木裕士さん」「北のくまモン先生」「山本哲也さん」、本当に疲れ様でした。

体調により今年のランを断念された「すみおさん」、インテックス大阪(受付)までご挨拶に来て下さいありがとうございました。

～～～ 関わってくださった皆さんに、この紙面をお借りして御礼申し上げます。～～～

①tetsujiさん、②大塚黄司さん、③ショットバーアイラさん、④リソウさん、⑤すみおさん、⑥青木裕士さん、⑦北のくまモン先生、⑧山本哲也さん



子ども防災クラブ



見えないと不安だね

3月2日(土)、高木北小学校にて今年度最後の子ども防災クラブを行いました。第一部は、プロジェクトで映し出された映像を見ながら、一年間の活動をクイズ形式で振り返りました。ついこの間のことなのにすっかり忘れていたり、メインではない小さなことを覚えていたり…みんなで大いに盛り上りました。

そして第二部は新聞紙でスリッパを作成し、そのスリッパを履いて災害時の夜の歩行体験をしました。地震で散らかった家の中、家の外では電信柱があつたりガレキが転がっていたり…そんな状況を段ボールやプラスチック製品で再現し、ひとりひとりアイマスクをして歩いてみました。目をつぶるだけでも進みにくいのに、作り物とはいえ石や物が転がっている想定なのでみんな恐る恐る一歩ずつ進んで行きました。「前が見えなくて大変だった」「貴重な経験ができた」「思ったよりスイスイ歩けた」子ども達がそれぞれ感想を伝えてくれました。今回の経験が、今後何かの形で役立つと嬉しいです。ご協力くださった学生リーダーの皆さん、どうもありがとうございました。



新聞紙スリッパを作ったよ!



高木春まつり



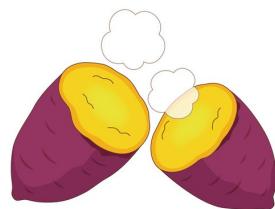
4月14日(日) 西宮市の高木公園にて高木春まつりが開催され、当団体も恒例となった模擬店『魚つり』で参加させていただきました、当日は汗ばむほど良いお天気で、スタッフ一同しっかりと日焼けしながら、たくさんの子どもさんと楽しい一日を過ごすことができました。前回の秋まつりから、景品の飴に加え『防災グッズ』をひとつプレゼントしています。前回は「閉じ込められてしまった時に役立つホイッスル」。今回は少し防災から離れますか、幼い頃誰もが一度は吹いたことがある(?)可愛らしい「巻き笛」にしました。どちらも大好評で、お子さんたちの笑顔に我々も元気をいただきました。ご協力くださった子ども防災クラブのリーダーさん、そして関西学院大学チャコネットの皆さん、どうもありがとうございました。



Nうごき

NVNADの活動をお知らせするコーナーです。（2024年2月～4月）

2月	2～4日	能登半島地震支援活動（石川県）
	3日	災害ボランティア養成講座（西宮市）
	7日	防災授業（兵庫県丹波市）
	8日	おやこ防災講座（西宮市）
	9日	災害ボランティア養成講座（大阪府門真市）
	9～11日	能登半島地震支援活動（石川県）
	13～14日	能登半島地震支援活動（石川県）
	17日	災害ボランティアセンター運営訓練（西宮市）
		ニュースVol.137発行
	22日	防災講座（東大阪市）
	22～25日	能登半島地震支援活動（石川県）
	23～24日	大阪マラソンEXPO（大阪市）
	25日	大阪マラソン2024（大阪市）
3月	2日	防災イベント（西宮市）
	3日	第3回子ども防災クラブ（西宮市）
	3～4日	被災地オンライン交流会（西宮市＆岩手県野田村）
	8日	能登半島地震支援活動（石川県）
	11日	NVNAD臨時理事会（西宮市）
		野田村ミーティング（岩手県野田村）
	15日	郡山訪問（福島県）
	17～18日	防災講座（兵庫県尼崎市）
	19～20日	能登半島地震支援活動（石川県）
	20～21日	能登半島地震支援活動（石川県）
	21日	能登半島地震支援活動（石川県）
	27日	防災アニメ研修セミナー（オンライン）
	28～30日	NVNAD通常理事会（西宮市）
	31日	出前プレーパークinのと（石川県）
4月	5～6日	桜まつり（兵庫県佐用町）
	13～14日	能登半島地震支援活動（石川県）
	14日	能登さくらまつり（石川県）
	20日	高木春まつり（西宮市）
	27～28日	NVNADシンポジウム第4回（西宮市）
		能登半島地震支援活動（石川県）



Nごよみ

今後の予定・講演などのスケジュール

5月	9日	通常理事会
	17日	ニュースVol.138発行
	18日	NVNAD会計監査
	22日	防災講座（西宮市）
	25～26日	能登半島地震支援活動（石川県）
6月	2日	ココロープ「手作りの会」（西宮市）
	6日	近畿ろうきん贈呈式（大阪市）
	16日	NVNAD通常総会
	30日	NVNADシンポジウム第5回（西宮市）



～会員・寄付者・募金者のみなさま～

(2024年2月1日～4月30日)

■会員のみなさま

個人正会員：「新規」馬場滋夫

「継続」松野博、荻原迪子、定藤美雪、山下佳子、舟知正、森川博雄、松本清子
桐山裕文、魚島侑子、矢守恭代、片岡幸壱

個人賛助会員：「新規」花田裕二

「継続」長野恵子、松山晋也、斯波裕司、佐々木真次、平川りつ子、山田明子
小林良彦、小林静子、鈴木憲一、荒銀昌治、荒銀和子、中井亜沙美
谷原和憲、吉岡啓次、小村英子、葉千鶴子、石川智子、野村めぐみ
渡邊鶴子、渡邊一正、渡邊朝子、狩野宣敬、狩野順子、御船鋼
御内真理（ふあんきい☆かんぱにー）

団体正会員：「継続」日本労働組合総連合会大阪府連合会

法人賛助会員：「継続」株式会社京佐興産

■寄付者のみなさま ※ココロープ宛のご寄付も含みます。

吉田実夏、北村公子、ひざこぞう、keyru、ひでぼー、ちびくん、山本折也、増川拓
高石鉄士、青木裕士、稻田和彦、姜忠勲、井口雅司、魚島侑子、渡邊鶴子、舟知正
小林良彦、山田明子、山下佳子、吉岡啓次、古塚純枝、大川悦子

三和ホールディングス株式会社、日本損害保険協会、株式会社日本触媒、ヤフー株式会社
有限会社林電工、神戸マラソンフレンドシップ、社会福祉法人光朔会オリエンピア
近畿ろうきんNPO寄付システム契約者の皆様、ソフトバンクかざして募金(寄付者)の皆様

■募金者のみなさま

池田加代子、松本清子、山口恵子、竹田明敬、梶昌代、松崎武生、武智美和、山田和子
竹下養子、宮城久代、長野理恵子、鶴田美紀代、松野真弓、ノトハントウ6620871
社会福祉法人いちにわたけのこ会、特定非営利活動法人はらっぱ
天寿会、関西学院大学、募金箱2024、ニシムラサユリ、コモリミユキ、ミヤジユキ

■ご協力いただいたみなさま 株式会社フェリシモ、株式会社高山堂

* NVNAD田中稔昭元理事長より、未使用切手をたくさんご寄付いただきました。

皆さまのご支援に感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

なお、お振込みくださった方につきましては、振込名でご紹介させていただきましたのでご了承下さい。

NVNADを支えて下さい

皆様から頂いたご寄付は活動を継続していくために役立てて参ります。何卒ご支援くださいますようお願い申し上げます。

【振込銀行】三井住友銀行 西宮支店 普通 No.7833406 (名義)特定非営利活動法人日本災害救援ボランティアネットワーク

当団体は認定NPO法人ですので、いただいた寄付金は税制優遇を受けることが出来ます。

1月中旬～下旬に寄附金受領証明書を送付させていただきます。

銀行振込ではカタカナ名しか把握できませんので、お手数ですがご住所とお名前をお知らせ下さい。

TEL 0798(34)9011 FAX 0798(34)9022 e-mail:nishinomiya@nvnad.or.jp

編集後記

1月1日に発生した能登半島地震では、七尾市や輪島市などの被災地域を何度も回っていますが、ボランティアの姿を見かけることがほとんどありません。阪神・淡路大震災以降、コロナ禍の時期を除いては被災地には多くのボランティアが駆け付けて、活動を行うことが当たり前になっていたように思いますが、今回は事情が大きく違うようです。ボランティアの意味や役割を改めて問い合わせる必要があります。 (H. T)

認定特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク [NVNAD]
〒662-0853 兵庫県西宮市津田町3-43 TEL 0798(34)9011/FAX 0798(34)9022
http://www.nvnad.or.jp/ 発行人：檜垣龍樹